

第7回 JODI カンファレンス

JODI は Joint Oil Data Initiative の略で、透明性の高い世界石油需給データを毎月収集・整備することを目的としています。

JODI カンファレンスは、国際エネルギーフォーラムと連携を取りながら開催され、エネルギー大臣の支援を受け、参加国の拡大、JODI データの品質改善（特に適時性）、世界データベースの開発、JODI 拡張フォーマットの利用、と JODI の発展に寄与してきました。

第7回 JODI カンファレンスでは以下の4つの主要テーマを議論しました。

- ① リヤド（第6回）からキト(第7回)：第6回カンファレンス以降の進展
- ② JODI：その評価と期待
- ③ データの透明性：今後の課題
- ④ 全ての参加国が2010年までに完全なデータを適時に提出するためには

また、本カンファレンスの議論の内容を以下の3点にまとめ、JODI の今後活動計画として記者発表されました。

- ① JODI 拡張フォーマットの定常利用
- ② ガスデータと年次データの収集可能性の検討
- ③ JODI データの品質評価

当研究所は JODI 国際機関の一つとして上記3点を念頭に、APEC 地域の JODI データの品質向上、ガスデータ収集の改善、年次データ収集可能性の検討を通じて、JODI の発展に今後も貢献していく所存です。

第7回 JODI カンファレンス

JODI は Joint Oil Data Initiative の略で、透明性の高い世界石油需給データを毎月収集・整備することを目的としています。JODI は、第7回国際エネルギーフォーラム(2000年11月、リヤドで開催)の参加エネルギー大臣のメッセージに基づいて開始されました。それは、「最近の石油価格の乱高下はミッシングバーレルと呼ばれる石油需給の統計誤差の拡大が原因であり、透明性の高い石油需給データの整備が不可欠」というものでした。この大臣の要請に基づき、6国際機関(APEC、EUROSTAT、IEA、OLADE、OPEC、UNSD)及び主要石油生産国・消費国が2001年4月バンコクに集まり、簡潔なフォーマットを利用した月次石油需給統計を整備することに合意し、この6機関がメンバー国・地域を対象にその試験収集を開始しました。それから8年、今ではリヤドに開設された国際エネルギーフォーラム事務局(IEFS)を頂点とした6国際機関、メンバー国という階層型データ収集体制が確立され、毎月2ヶ月前の世界石油需給データがIEFSのウェブサイトから発信されています。

JODI カンファレンスは、前述のバンコクの開催を1回目として今回で7回目を数えました。このカンファレンスは国際エネルギーフォーラムと連携を取りながら開催され、エネルギー大臣の支援を受け、参加国の拡大、JODI データの品質改善(特に適時性)、世界データベースの開発、JODI 拡張フォーマットの利用、と JODI の発展に寄与してきました。今回は昨年4月ローマで開催された第11回国際エネルギーフォーラムのコミュニケを受け、JODI データの品質改善と共にガスデータや年次データの収集が主な議題となりました。

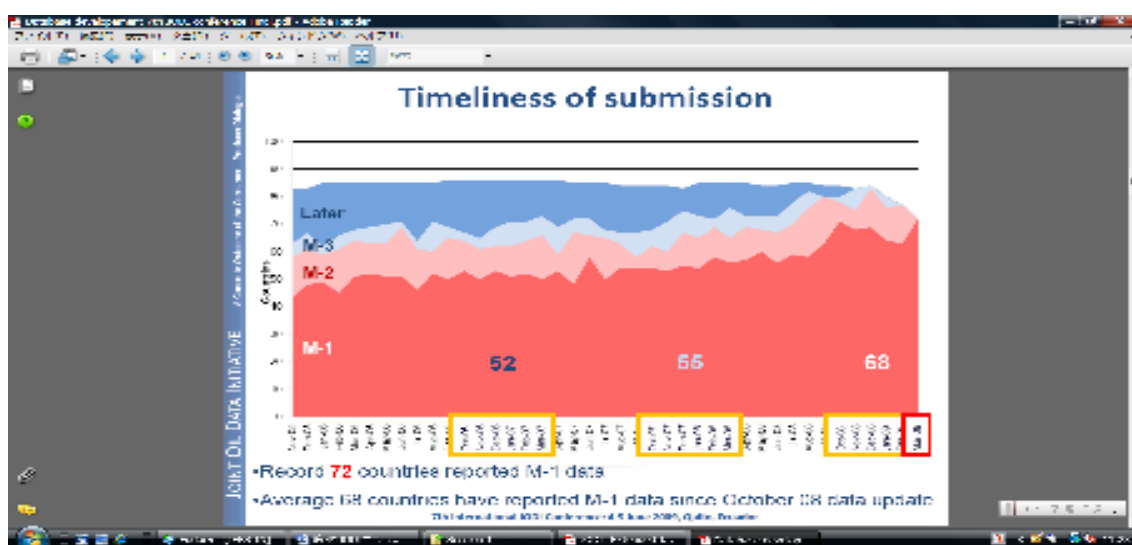
第7回 JODI カンファレンスは、ラテンアメリカエネルギー機構(OLADE)とエクアドル政府の協力の下、首都キトで開催されました。参加者数は、27カ国の政府機関、8国際機関、12石油会社及び金融部門から総勢90名を数えました。当研究所もAPEC地域の国際機関としてこのカンファレンスに参加し、セッション議長やスピーカー、パネリストの役割を果たしました。なお、APEC地域からは、カナダ、インドネシア、日本(経産省燃料部石天課)、フィリピン、ロシア、台湾、アメリカの7カ国・地域が参加し、各セッションでプレゼンや質疑応答などに加わりました。

第7回 JODI カンファレンスでは以下の4つの主要テーマを議論しました。

- ① リヤド(第6回)からキト(第7回): 第6回カンファレンス以降の進展
- ② JODI: その評価と期待
- ③ データの透明性: 今後の課題
- ④ 全ての参加国が2010年までに完全なデータを適時に提出するためには

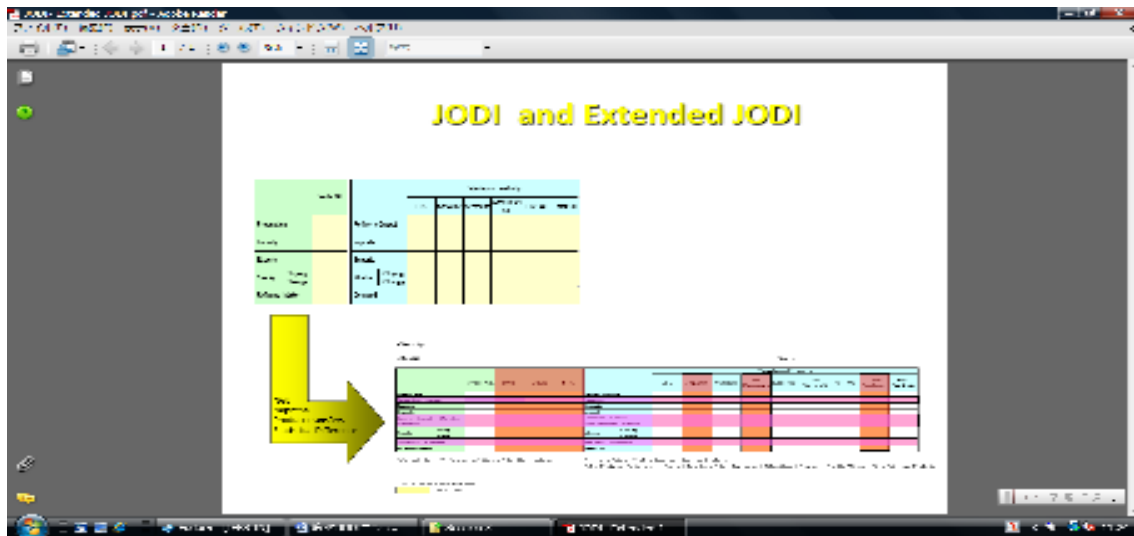
1番目のテーマの第6回 JODI カンファレンス以降の進展では、M-1(1ヶ月前)データを提出する国・地域が大きく増加したことがIEFSから報告されました。中でもAPEC地域の進展は顕著であり、2009年1月のデータ提出では21メンバー中18メンバーがM-1データを提出するという好結果を残しました。これには、JODI トレーニングが大きく貢献

しています。これまで、JODI トレーニングは中南米諸国（カラカス、2006年8月）、サハラ砂漠以南アフリカ諸国（ヨハネスバーグ、2007年1月）、北アフリカ・中東諸国（アルジェ、2007年10月）、アジア・太平洋諸国（バンコク、2008年9月）を対象に開催され、参加者に JODI フォーマット及び部門・油種の定義の理解、データ収集方法、典型的な入力ミス、などを教習してきました。なお、IEFS 及び 6 国際機関は今年の 11 月に東欧・カスピ海沿岸諸国を対象とした JODI トレーニングをトルコのアンカラで開催する予定です。これには、APEC 地域からロシアが参加します。IEFS 及び国際機関はこのトレーニングの効果の高さを認識しており、引き続き中南米、アフリカ、アジア諸国を対象とした第 2 ラウンドのトレーニングを実施することを確認しています。



2 番目のテーマの JODI の評価と期待では、バークレイキャピタル社がトレーダーの立場として、まだ改善の余地はあるものの大変利用価値のある石油データソースであると JODI を評価しました。また、本カンファレンスの直前に実施した JODI ユーザー調査結果によれば、JODI の主要ユーザーは石油アナリスト・調査員であること、データの欠落はあるものの適時な情報提供は有効であること、などが明らかとなりました。また、JODI データの品質評価及び発表時期の早期化、バイオ燃料の明示化などの要望も出されました。品質の検討など改善点は見られるものの JODI への評価は概ね高く、また期待も大きいことが示されました。

3 番目のデータの透明性向上のための今後の課題では、現在試験的に利用している JODI 拡張フォーマット、ガスデータ及び年次データ（埋蔵量、設備容量、能力増強投資計画など）の収集に関する議論を行いました。JODI 拡張フォーマットでは、適時性を犠牲にしても同フォーマットより詳細な石油データが欲しいという意見も見られましたが、この拡張フォーマットをさらに普及させることが合意されました。また、ガスデータや年次データの収集も重要であるという意見が多数を占めました。実施の困難性を指摘する意見も散見されました。結論としては、ガス・年次データとも前向きに検討することになりました。



4番目のデータの改善では、JODI 拡張フォーマット利用の定着のためのキャパシティ・ビルディングの必要性、同拡張フォーマットに対応したマニュアルの整備、JODI を使った分析レポートの刊行などが議論され、今後取り組む課題として位置づけられました。また、Bloomberg 社が JODI の配信に高い興味を示していることを披露しましたが、JODI データを Bloomberg 社に提供すると言う結論には至りませんでした。これも今後の課題です。

以上の内容は、来年3月末に開催される第12回国際エネルギーフォーラム（メキシコ）の参加エネルギー大臣に報告されることになっています。また、本カンファレンスの議論の内容を以下の3点にまとめ、JODI の今後活動計画として記者発表されました。

- ① JODI 拡張フォーマットの定常利用
- ② ガスデータと年次データの収集可能性の検討
- ③ JODI データの品質評価

当研究所は JODI 国際機関の一つとして上記3点を念頭に、APEC 地域の JODI データの品質向上、ガスデータ収集の改善、年次データ収集可能性の検討を通じて、JODI の発展に今後も貢献していく所存です。

